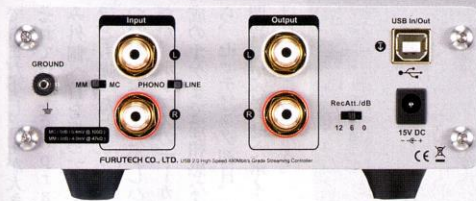
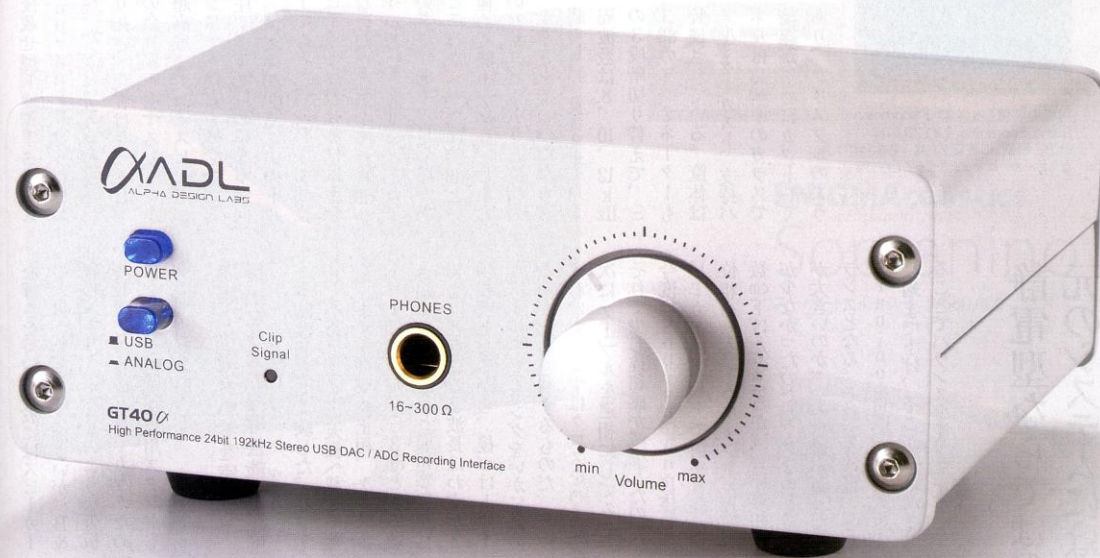


「オーディオ銘機賞2015」
受賞モデル Special Issue

ADLのネットオーディオ用 デバイスがさらに進化 ヘッドフォンやUSBケーブルもよりハイグレードに

ネットオーディオ用デバイスの先駆けとして大好評を博したADL GT40 USB DACが、高いコストパフォーマンスはそのままに新たなスペックで生まれ変わった。本機では新たに192kHz/24bitのUSB DAC、そしてLPなどのアナログ音源を192kHz/24bitでデジタルアーカイブ化できるADCが搭載され、より高いパフォーマンスを実現している。同じく進化したヘッドフォン、USBケーブルとともにADLの新世代のアイテムの魅力を山之内正氏がレポートする。

Text by
山之内 正
Tadashi Yamanouchi
Photo by 田代法生



本機のリア部。USB(B端子)入力のほか、フォノ/ライン切り替えのアナログ(RCA)入力が1系統、出力はアナログ(RCA)が1系統と、フロントパネルにヘッドフォン出力を1系統装備。電源は5V DCのUSBバスパワーによる電源供給(USBチップのみ独立給電)と外部AC/DCスイッチングアダプター(15V / 0.8A / 12W)による給電の2種類に対応

ADL GT40α

AEx
オーディオ銘機賞
Audio Excellence Award 2015

フォノコライザー内蔵USB DAC ¥46,000

※低ジッター・クロックリカバリシステム、アシンクロナスモード(非同同期型) / ASIO対応

●形式: USB & アナログ入出力対応オーディオインターフェース ●サンプリング周波数: オーディオアプリケーションソフトに依存USB入力時=再生 24bit/192kHz(Max)、録音 24bit/192kHz(Max) 16/24bit、44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz対応 ●周波数特性: 20Hz ~ 20kHz(±0.5 dB) ●SN比: -90dB(A-wtd) / ライン出力 ●ライン出力レベル: 5Vrms(THD < 1%) ●ライン出力インピーダンス: 100 Ω ●ライン入力レベル: MC 0.4mV / MM 4.0mV / Line 2Vrms ●ヘッドフォン出力レベル: 1% THD(全周帯域) 1kHz: Max 94mW(16Ω)、110mW(32Ω)、98.6mW(56Ω)、23mW(300Ω) ●電源: 外部ACアダプターによる給電 15V / 0.8A / 12W ●サイズ: 150W×111D×57Hmm ●質量: 約650g / 本体

■USB DAC「GT40α」
最大192kHz / 24bitに対応
設計を見直しさらに高音質化を実現

ADLはこの秋に発売するヘッドフォン「H128」に合わせ、既存のUSB DACをブラッシュアップした「GT40α」を投入する。ハイグレードのUSBケーブル「GT2Pro」と組み合わせ、実際に音を確認することができたので、まとめて紹介することにしよう。

H128は同ブランド第一号機「H118」の上位モデルとして開発された密閉型ヘッドフォンで、振動膜にPEEKを採用した40mm口径のユニットを搭載する。異なる周波数の間の干渉を抑えるダンピング用リングをボイスコイルと振動板の間に挿入するなど、磁気回路にも多くのノウハウを投入。本機の最大の特徴であるイヤークリップ部分には逆三角形形状の「Alphatrium」イヤークリップを今回も採用。ヘッドバンドを改良して装着性を改善したことに加え、3色用意された仕上げの質感の高さにも磨きがかかっている。

▶「ヘッドフォン」
装着性がより改善され
質感の高さも磨かれる



ADL H128



ヘッドフォン

¥OPEN(市場予想価格¥40,000前後)

※カラーはBR(ブラウン)mBK(ブラック)、NV(ネイビー)の3色を用意

●形式：密閉ダイナミック型 ●ドライバー：口径40mm特殊高性能マグネット ●出力音圧レベル(1kHz)：98dB SPL/mW ●再生周波数帯域：20Hz～20kHz ●最大許容入力：200mW ●インピーダンス(1kHz)：68Ω ●イヤークッション材：合皮 ●側圧：約4.5N ●コネクタ：非磁性ロジウムメッキ仕様のα(Alpha) mini-XLR ●コード：片出し3.0m ストレート(着脱式) ●質量：ヘッドフォンのみ：約280g/ケーブル含む：約320g

を組み合わせることが最大の特徴だ。シールドは3層構造、コネクタには24kメッキを施し、シールドカバーにも24kメッキ処理を施した銅合金を採用するなど、フルテックならではのノウハウを複数投入して素材の吟味を行っている。シースとスリーブにはPVCとナイロンを採用して柔軟性を確保しているため、デスクトップ向けに短いケーブルを選んでも取り回しは優れている。

超低域まで素直に伸びて
ストレスも感じにくい音質

GT40aと組み合わせるとH128の音を聴いた。低音の音圧感はかなり強力で、超低音の領域まで素直に伸びている。ベースは密度感や弾力と伸びやかさのバランスをしっかりと確保しており、ヴォーカルや旋律楽器を抑え込むほどの過剰な低音ではない。また、発音した後に必要以上に引きずることもなく、輪郭のにじみもよく抑えている。中高域はどちらかというと落ち着いた感触でヴォーカルの子音やリズム楽器の高音がいたずらに耳を刺激せず、大きめの音量で聴いてもストレスを感じにくい良さがある。



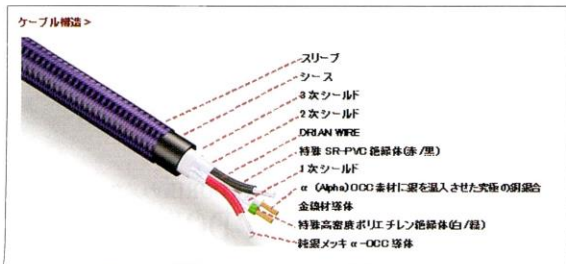
FURUTECH GT2Pro

USB(2.0)ケーブル

A to Bタイプ=¥13,500(0.3m)

A to miniBタイプ=¥13,500(0.3m)

※その他0.6m、1.2m、1.8m、3.6m、5.0mがラインアップ



H128との組み合わせではす

間なく耳を覆う感触も意外に心地よく感じられた。密閉型なので当然とはいえ音漏れは十分抑えてあり、外来音を遮断する能力も高い。取りつけた途端に静寂に包まれる感触は開放型では味わえないもので、独自形状のイヤークッションがもたらす効果も大きいと感じた。

音源の特徴をストレートに引き出し
ヘッドフォンの個性が明確になる

GT40aは仕上げの精緻な感触と再生音の印象がよく似ている。重要なポイントをしっかり押さえながら余分な演出を加えることがなく、音源の特徴をストレートに引き出すことが基本。その素直さゆえに組み合わせるヘッドフォンの個性が明確に浮かび上がってくる点も本機の長所に数えるべきだろう。

で紹介した通り音圧に十分な余裕があるが、感度が低めのオープンエア型ヘッドフォンと組み合わせても重心が上がったり密度が薄まる心配はない。大きめのボリュームノブは動きがスムーズで微調整もしやすく、このサイズのUSB DAC&ヘッドフォンアンプのなかでは使い勝手は良好だ。内蔵フォノイコライザーは背面パネルにMM/MCの切り替えと3段階のアッテネーターを用意。スイッチは小さいが、頻繁に使う機能ではないので問題はないだろう。フォノイコライザーアンプ、A/Dコンバーターどちらも素直な音色なので、アナログレコードの手軽なデジタルアライブに重宝しそうだ。

GT40aはフォノイコライザーアンプとヘッドフォンアンプを内蔵する多機能USB DACで、外見はGT40と共通だが、最大192kHz/24bitのハイレゾPCM信号に対応したことが新しい。アナログ入出力端子の配置などが変更されていることから、基本設計を大幅に見直して高音質化を図っていることがうかがわれる。最大の特徴であるフォノイコライザーアンプはMMとMCに対応し、A/D変換機能も最大192kHz/24bitまでサポート。手持ちのアナログレコードを本機でデジタル化し、パソコンにアライブする用途にうってつけだ。

USBケーブル

究極の銅合金素材を
導体に採用した新モデル

GT2Proはフルテックブランドの高級USBケーブルで、αOCC材に銀を加えたメイン導体と銀メッキαOCC材の電源導体



同社オリジナルの3.5mm→6.3mm変換プラグ F63-S(G)と、交換用ケーブルiHP-35X 1.3Mを標準付属している